

週日の説教

金 大烈 神父 2011年3月11日(金)

《断食の意味とは》

主の平和

今日の福音(マタイ9:14-15)を簡単に申し上げます。「花婿が奪い取られる時が来ると、私の弟子たちも断食に入る」という文章です。間違えて解釈する人が結構いるのではないかと思います。自分の花婿を奪われたから、それで悲しくて断食することではありません。イエス様がおっしゃっているその断食の意味は、「私がいなくなって私の弟子たちも断食するだろう」という意味は、悲しくて断食するのではなくて、先生である私が見せたその生き方をするために、その道を歩むために断食するという話です。

その意味をはっきりと見せているのが、今日の第一朗読で読まれたところですが、もう一度読んでみます。『わたしの選ぶ断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、^{くびき}軛の結び目をほどいて虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え、さまよう貧しい人を家に招き入れ、裸の人に会えば衣を着せかけ、同胞に助けを惜しまないこと。』(イザヤ58:6-7) カトリック信者が断食する意味はただ一つです。それは悲しみのため、苦痛のためではありません。それは今日の第一朗読で話された、イエス様が一生をかけて見せようとしたその中身を生きるためです。

昔からイスラエル人は断食をしました。灰を頭にかぶり、衣を裂き、色々なことをして、断食を行ったのですけれども、それは殆どが習慣で、癖になってしまったものです。いつもイスラエル人が断食したのは、自分達が罰せられないように、怖くてやったものだったのです。

しかし、イエス様が教えてくれた断食の意味は、全然違います。断食するのは一緒に与ることに意味があります。人の痛みと一緒に与る、人の飢えと一緒に与る、人の喜びと一緒に与る、こういう精神がなかったら断食は何の意味もありません。そういう意味で、イエス様は断食するときに頭に油をかけなさいとおっしゃったわけです。私達は断食を暗闇、古い、というような苦痛の意味で受け取っています。いいえ、イエス様は私達の苦痛をのぞんでいらっしやいません。絶対望んでいらっしやいません。そうではなくて、私とすべての人々のつながりによって生じたいろんな罪、その罪によって、深く縛られて悩んでいるその人々、痛みで困まっている人々、その痛みと一緒に感じながら与りましょうと、その人ためになんとか祈りましょうという根本的な内容を持っているのが断食です。

この前、私が60歳以上のかたは断食を許しませんと申し上げましたけれども、断食という形で行わなくても、やる方法は沢山あります。断食と断食に勝る色々な愛の行為が沢山あります。それを一生懸命取り組んで下さい。そのほうが、お腹がすいたのを何時間も我慢しなければならないようことで

はなくて、きれいにできると思います（笑）。もちろん若者は断食して下さいね。50代までは。それ
も必要です。

さあ、今日の福音をよんで、もう一度振り返ってみましょう。断食とは、否定的な意味ではなくて、
自分に苦痛をあたえることではなくて、もう一度イエス様の御心に近づいて、イエス様が心を痛めて
いる全てのことに一緒に与るという心が、一番必要な精神であるということをもう一度考えてみま
しょう。

ありがとうございました。